

渋谷区裏原宿を事例としたファッションショップの形成過程とその特徴

○服部 勉 [東京農業大学地域環境科学部造園科学科] 川合 進矢 [JAとびあ浜松]

キーワード：裏原宿 ファッションショップ

東京・渋谷区の裏原宿を対象に、①ファッションショップの形成過程、②裏原宿に存在するショップの特徴の2点を調査した。その結果、ファッションショップの形成過程は、①1990年以前：ファッションショップ誕生契機となった「NOWHERE」などが点在した時期、②1990年～99年：セントラルアパートに新しい文化の担い手となるデザイナー達が多く居住した影響、「A BATHING APE」など、中核的ショップの登場から、周辺地域に展開した時期、③2000年～04年：ショップが更に拡大した、「裏原ブーム」全盛期、④2005年～09年：裏原ブームの更なる高まりと共に、地価・テナント料の高騰から住宅街にまで進出しはじめた時期に区分できた。また裏原宿のショップの名称、内容、位置を確認した結果、2009年現在、約640のショップが存在し、約3割の約240がファッションショップで占められ、ヘアサロン、雑貨、カフェなど、ファッション関連ショップも多いが、1年間に約140のショップが入替わり、その半数の50～70がファッションショップであったことなども明らかとなった。以上のことから、裏原宿のファッションショップは常に若者文化の影響を受けつつ、街と共に変動・変質する存在であることが確認された

山梨・清里における観光地化とその変容過程

○服部 勉 [東京農業大学地域環境科学部造園科学科] 浅川 望美 [(有)浅川造園]

キーワード：清里 KEEP協会 萌木の村

観光地として飛躍的な発展をした清里（山梨県北杜市高根町）の1990年以降の約20年間の変容過程について考察を行った。その結果、①観光地形成の基盤造り（1930-1969）、②ペンションによる飛躍的な発展（1970-1993）、③衰退する清里（1994-2000）、④再生への新たな取り組み（2000年以降）の大きく4つの時期に区分された。また清里の観光地としての再生・発展の鍵は常に観光地の原点となったKEEP協会とてその影響を受けた萌木の村が大きく関与していた。聖公会の清泉寮を基盤として設立されたKEEP協会は、「食糧」「保健」「信仰」「青年への希望」「環境教育」「国際協力」という6つの理念を掲げ、現在も時代にながされることなく、存続している。その原点には清里という地域性と設立者・ポール・ラッシュの理念を十分に認識しながら、協会運営を実施している点にあった。萌木の村も、清里の地域性、現在の自然志向を重視した欧米風の施設導入などで、高い集客力を誇っているが、周辺の同様施設では衰退・閉鎖しているところも多い。単にKEEP教会の外形を模倣した観光展開ではなく、ポール・ラッシュの理念を十分に理解した「観光」の原点を見直しながら実践することが、「清里」の新たな観光展開には必要と考えられる。